

キヤノンメディカルシステムズが主催する画像診断コンテスト 「画論32th The Best Image」で最優秀賞を受賞

放射線画像の技術を評価するコンテスト「画論32th The Best Image」のMRI・1.5テスラ以下(脳神経)部門で、当院放射線課と三重中央医療センター脳神経外科が共同で応募した、「Time of flight (TOF)-MRA形状重ね合わせを用いた右中大脳動脈瘤の評価」が最優秀賞を受賞しました。撮影に対する創意工夫と画像のクオリティ、診断・治療にもたらす価値などが高く評価されました。

コンテストは、診断・治療に有用な画像のクオリティ、被検者へのメリット、テクニックの創意工夫など、クリニカルバリューを総合的に判断し「画像診断技術の発展と医療への貢献に役立つ画像」として多くの施設で共有する取組みです。



応募総数は379件で、上位入賞39件の中からの受賞でした。2024年12月15日に最終審査となるプレゼンテーションを行い、当院が今回初めての最優秀賞(MR部門)を受賞しました。当院放射線課の画像診断技術とその画像精度の高さを示すものとなりました。



左からキヤノンメディカルシステムズ株式会社 代表取締役社長 瀧口 登志夫氏、 当院 放射線課石田係長

「Time of flight (TOF)-MRA形状重ね合わせを用いた右中大脳動脈瘤の評価」

未破裂脳動脈瘤の経過観察は、CT検査 (CTA) とMRI検査 (TOF-MRA) があり、一般的に非侵襲的なMRI検査が選択されます。一方で、MRI検査は不整な動脈瘤を正確に描出することが困難な場合があり、撮像の原理から仕方がないものと考えられています。そこで、多方向からの撮影画像を重ね合わせる方法を考案したところ、より正確な形状把握と従来困難とされてきたMRA画像を用いた数値流体力学 (CFD) への臨床応用が期待される結果となりました。この技術により造影剤を用いない動脈瘤評価への有望性が評価に繋がりました。

七栗記念病院 医療技術部放射線課 石田智久
三重中央医療センター 脳神経外科 石田藤麿



今回のコンテストに携わった放射線課のみなさん

【放射線課コメント】

コンテストに参加し当院の画像診断技術の評価していただき、我々スタッフの自信に繋がりました。今後も当院医師や三重中央医療センターと連携して研究を進め、さらなる画像診断技術の向上を目指したいと思います。

また、サポートいただいた三重中央医療センター脳神経外科石田先生にはこの場を借りて心から感謝申し上げます。